

香川用水 水の確保への努力は、戦後の経済基盤の拡大の恵みとともに、溜池からダムへと急テンポで進み、県内では、内場・長柄・大内・大川・府中ダムなど新たに一二のダムを建設し、四〇〇〇万の新しい水を生み出したが、根本的解決にはならなかった。

このダム建設と並行して、明治からの夢「吉野川の水を香川に」の構想が実現されていった。はじめて具体化していったのは、昭和二五(一九五〇)年、「吉野川総合開発計画案」である。同二九年には、「吉野川開発調整案」が完成し、県と農林省が共同して香川用水計画に着手した。同三八年、建設省が早明浦ダム調査に着手した。

こうして同四三年一〇月二四日、三豊郡財田町において起工式が挙行され、この大事業がスタートした。

その後、香川用水事業は順調に進み、水源の早明浦ダムは同四八年

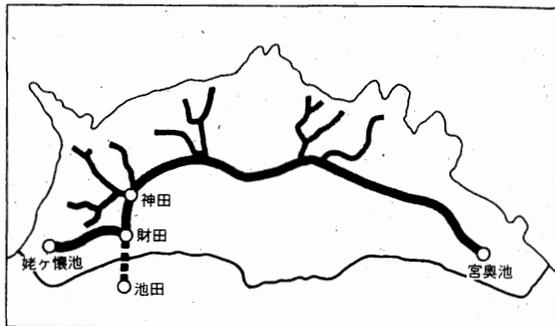


図3-37 香川用水幹線経路図

に完成し、取水堰となる池田ダムも同年にできた。それにより同四九年より分水を開始した。

早明浦ダムによって開発される水量は、年間八億六三〇〇万で、そのうち香川県には、二億四七〇〇

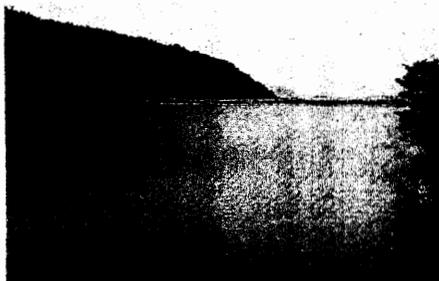


写真3-49 姥ヶ懐池



写真3-48 一の宮浄水場

表3-48 諸事業と地区

事業名	地区名
小規模排水事業	尾免尾田
土地改良他事業	新高尾田
団整備官専	新尾院野本和
農業集落排水事業	野々池村田
村整備官専	野々池村田
農総合池等	野々池村田
一般	野々池村田
官水かんが	香川用水
国官施設整備	香川用水
国防官総合農地	香川用水

表3-49 平成6年度配水計画書

分水工名	地区名	面積 (ha)	反当水量 (t)	全配水量 (千t)	施設容量 (m <sup>3</sup> /s)	平成6年度配水計画書																			
						非干害期		干		害		期		非干害期		地区名		備考							
田	田					4/1~6/10	田数	水(千t)	6/11~7/10	田数	水(千t)	7/11~9/15	田数	水(千t)	9/16~10/10	田数	水(千t)		10/11~11/30	田数	水(千t)	12/1~3/31	田数	水(千t)	
坂橋池	田	48.3	400	192	0.011~0.050	(0.002)	12	(0.010)	24	(0.013)	34	(0.033)	67	(0.005)	11	25	1								
野々池	田	67.0	400	268	0.018~0.120	(0.003)	17	(0.013)	34	(0.033)	192	(0.007)	67	(0.007)	15	25	2								
指代池	田	11.0	400	44	0.004~0.010	(0.001)	3	(0.002)	6	(0.005)	31	(0.001)	67	(0.001)	3	25	—								
姥ヶ池	田	143.3	400	573	0.025~0.190		36	72	30	410	197	67	33	30	4	4									
計	田	222.8		1,098	φ250		114	(0.047)	124	(0.105)	607	(0.029)	63	(0.029)	63	34									
箕浦	田	110.7	660	727	0.019~0.129	(0.018)	108	(0.029)	72	(0.049)	273	(0.020)	67	(0.020)	41	25	42								
合 計	田	269.6	400	1,077	(0.042)		68	(0.101)	136	(0.216)	771	(0.062)	62		7										
田	田	190.2	660	1,252			186		124		470		71		72										
計	田	459.8		2,329			254		260		1,241		133		79										

ロックに分け、それぞれ浄水場をつくり、一日一人あたり、最大給水量四〇〇とし、年間毎秒二、六三〇〇万tを供給する。  
また、工業用水としては、年間を通じて毎秒二・五、七九〇〇万t供給する。

町内には、図3-37のように、早明浦ダムから池田ダムに引かれ、讃岐山脈に掘った長さ約八kmのトンネルを通して財田町にきたものが、西部幹線約三kmを通ってくる。

上水道の水は、雲岡受水槽と、一の宮浄水場にためられた水が、町内各地で使われている。

また、農業用水は、大坪の姥ヶ池に集められた水を、箕浦の箕池まで、各溜池に配水されている。これに関連した事業は表3-48のとおりで、国・県・町が協力して実施された。香川用水の恵みで、町内の田、約二七〇ha、畑、約一九〇haが、水の心配をしなくてすむようになった。表3-49で分かるように、全配水量は約二二三万tで、とくに七月から九月の干害期にその半分以上を使っている。

万t配分される。  
農業用水としては、県内水田面積の約八〇%にあたる二万五二〇〇haの水稲栽培に供給、また、畑には五六〇〇haに供給される。これは、水田一〇haあたり約二七〇t、畑一〇haあたり六六〇tに相当する。

また、上水道用水としては、県下を西部、中部、綾川、東部の四つ